

岩見沢でホタテメニュー

紋別との産地間交流の縁で

2009年から紋別商工会議所(片岡一道会頭)と産地間交流を続けてきた岩見沢商工会議所(松浦淳一会頭)はこのほど、中国による日本産水産物の輸入停止措置により苦しむ紋別など道内水産現場を応援しようと「北海道産ホタテ・海産物応援プロジェクト」を企画。今月12日現在、岩見沢市内43の飲食店がこれに参加し、「北海道産ホタテ応援メニュー」などを販売している。

日本商工会議所は9

月21日の総会で全国515商工会議所に対して、道内産など各地の水産物消費拡大に向けた協力要請を実施。これはを受けて岩見沢商工会議所は、長年にわたる岩見沢のグルメイベント「いわみざわ情熱フェスティバル」に出展してきた紋別を応援すべく、同プロジェクトを考案。紋別商工会議所とも協議を重ね、実現に至った。今年9月16日・17日の同フェスティバルでは紋別コーナーの人気は高く、行列もでき、ホタテステーキなど用意した品々は早々に完売した

という。その流れで企画された同プロジェクト。岩見沢市内の飲食店に参加協力要請を始めたのは今月3日だが、さっそく多くの応募があった。

参加店舗の一覧表によると、ホタテメニューだけでも刺身やバター焼き、カルパッチョ、フライ、カレー、グラタンなど、各店舗が工夫を凝らした様々なホタテメニューが登場。すでに提供も始まっている。

こうした取り組みは岩見沢などで新聞報道されたほか、11月1日には午後6時台のNH

Kニュース地域枠で生

中継される予定という(紋別は放映範囲外)。また岩見沢商工会議所としても、役員・職員に対する紋別産ホタテ玉冷のあっせん販売を開始。注文があった場合、紋別の加工業者から直接発送することになるという。

デパートからコンビニまで

広がる支援の輪

いっぽう北海道は「食べて応援!北海道」キャンペーンを積極的

に展開している。道庁地下食堂では9月12日から10月末まで道産ホタテを使用した

メニューを数量限定で

提供。北海道とさんごプラザ国内外18店舗でも特設コーナーの設置やPR動画の放映などを行っている。

大型小売店でも、札幌丸井三越や高島屋、アースグループが水産物売場や「大北海道展」でのポップ掲示や道産ホタテ使用メニューの提供を実施。イオン北海道も9月と10月の「イオン道産デー」「イオン大道産デー」でホタテのPR販売を行った。

こうした動きはコン

ビニ各社にも及び、セブンイレブンでは道内

約1000店舗におけ

る道産ホタテ使用おにぎりの提供に続き、今月17日からは全国2万1431店舗で道産ホタテ使用おにぎり・グラタンの販売を始めた。道内のローソン687店舗も道産水産物を使用した商品にキャンペーンロゴを使用したポップを17日から掲出している。

輸入停止措置の長期化が懸念されるなか、支援の輪は確実に広がりを見せている。